

## 金太郎を活用した町の広報戦略

常葉大学 経営学部 竹安ゼミ・日本大学短期大学部 大久保ゼミ  
指導教員：常葉大学教授 竹安数博・日本大学教授 大久保あかね  
参加学生：鶴牧 咲良、朝比奈 一実、大西 亜実、丸山 直美、  
安部 史織、小嶋 菜生、三宅 満里奈、久保田 麻友  
近藤 舞奈、関 美和、来栖 真奈、中澤 希、望月 良之佑

### 1. 要約

多くの人に「金太郎生誕の地 おやま」を認知してもらうための、金太郎の効果的な活用方法について、調査・研究を行った。そのため、金太郎の認知度調査と、調査協力者に依頼した「うろ覚え金太郎」のお絵描き実験、金太郎を使った看板等の実態調査の3つの調査を実施した。その成果をもとに、広報戦略の提案を行った。

### 2. 研究の目的

小山町は金太郎誕生の地であり、金太郎ゆかりのスポットが数多く残されている。町では金太郎をシンボルとして様々な場面でPRしており、金太郎のシンボルデザインを作成した。公共の出版物や金太郎に関連する商品、報道関連のバックパネル等への露出により、観光PRのアンテナとして活用している。

また、小山町観光振興計画アクションプラン内でも金太郎をシンボルとした観光の活性化を図るため、目標を掲げ様々な取り組みを行っている。しかし、「金太郎生誕の地 おやま」という知名度は未だ低い状況にある。

金太郎生誕の地である小山町は、世界遺産の富士山や富士スピードウェイ、ゴルフ場等の観光施設に加え、水と緑豊かな自然環境に恵まれている。また今後は工業団地、住宅団地、複合観光施設、宿泊施設等を設備する「三来拠点事業」が進められ、来訪者の拡大が予想される。一方で町民を核とした来訪客受入態勢設備が課題となっている。

本研究は、海外からのインバウンド観光客を意識した着地型旅行商品の企画や、地域資源の調査を通して、小山町の新たな魅力を掘り起し、受入態勢の整備や小山町民が自慢できる町づくりにつなげることを目的とする。

### 3. 研究の内容

実施日：2018年09月17日（祝・月）

- ・場所：道の駅ふじおやま、小山町内全域
- ・調査員：常葉大学 学生8人、日本大学短期大学部 学生5人

#### 【小山町内の金太郎の認知度調査】

道の駅ふじおやまにて、対面調査(小山町民・観光客・小山町役場の皆様)を行う。

・小山町内の金太郎について15問のクイズに答えてもらう。

#### 【うろおぼえ金太郎お絵描き実験】

上記の金太郎クイズに回答した調査協力者に対して、「うろ覚え」で金太郎のお絵描きに挑戦してもらう。

#### 【小山町内に現存する金太郎の実証研究】

小山町内に存在するあらゆる「金太郎」を見つけ出し、マップに落としこむ。

・市内各所(金太郎の看板、銅像など)をくまなく探し、位置情報を記録するため写真撮影をした。

→ カードゲーム(ポケモンGOをイメージ)の基礎データを作成

### 4. 研究の成果

#### (1) 当初の計画

町民にとっての日常風景の中でこれまで見落としてきた「金太郎」の情報を整理し、アニメ・ゲームを含めた大学生目線での「金太郎」イメージを活用した宣伝戦略をまとめる。小山町を全国に発信するためにSNS等で小山町へのアクセスを増やすことで、町民の意識改革を実証し、金太郎への評価につなげる。

##### ① 小山町内での金太郎の認知度調査

その1: 道の駅など、人の多い場所で対面調査

その2: 小山町民(小・中・高生含む)に対する認知度調査

##### ② 小山町内に現存する金太郎の実証研究

小山町内に散在するあらゆる金太郎をデータ化し、マップにしてゲーム等に活用する

#### (2) 実際の内容

A. 予定通り、**Ⓑ**. 一部修正、C. 中止

① 小山町内での金太郎の認知度調査では、日程の関係上、道の駅ふじおやま だけで対面調査(小山町民・観光客・小山町役場の皆様)を行った。小山町内の金太郎について15問のクイズに答えてもらい、うろおぼえ金太郎の絵を描いてもらい、共通点などを分析した。

② 小山町内の金太郎の実証研究では、市内各所(金太郎の看板、銅像など)をくまなく探し、写真撮影した。当初の計画に加えて、小山町内に存在するあらゆる金太郎をCmapperのアプリを活用してマップにした。(図4)さらに、そのアプリを活用したデジタルスタンプラリーを試作した。

### (3) 実績・成果と課題

#### ① 小山町内の金太郎の認知度調査

クイズの回収数：108件（男性：55%、女性：45%）

年代（10代以下：9%、20代：38%、30代：13%、40代：13%、50代：12%、60代：7%、70代以上：8%）

クイズ平均点：9.82点（満点回答1名）

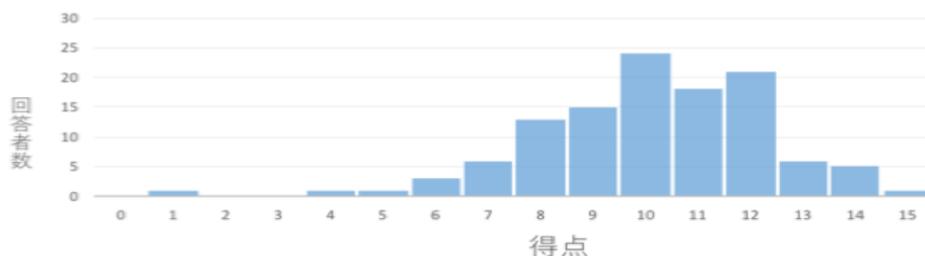


図1. 金太郎クイズの得点分布



図2. 金太郎「うろ覚え」イラスト

#### ② 小山町内に現存する金太郎の実証研究

小山町内に散在する金太郎は、今回の調査では合計30ヶ所まで確認できた。

撮影した場所は、道の駅ふじおやま、駿河小山駅、足柄駅、金時公園、小山高校、あしがら温泉、郵便局、消防署、商店街、交通標識、案内板、バス停、ゴミ捨て場、110番ステッカーなどである。



図3. 実証研究で撮影した「金太郎」

これらの金太郎をすべて現場で撮影し、撮影時に修得した GPS データを活用して Cmapper (アプリ) に入力して、「小山町金太郎マップ」に集約することができた。マップ上の画像を指定すると、位置情報と大きな画像で確認できるシステムである。

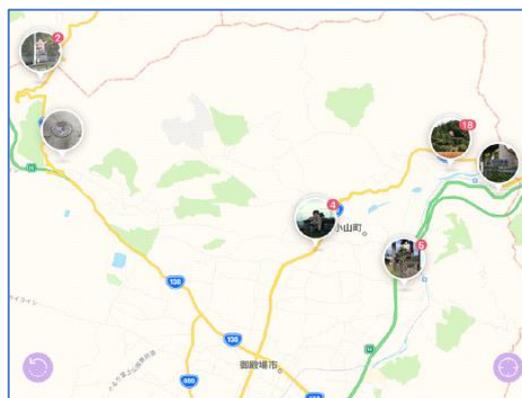


図 4. 小山町金太郎マップ (Cmapper)

#### 5. 今後の改善点や対策

調査の結果、小山町内には 30 か所以上に様々な種類の金太郎が散在していることが分かった。そこで金太郎の統一イメージを決めることを提案した。案内標識や、注意喚起の看板、工事現場の看板、柵などすべてに金太郎を入れ、町の金太郎イメージを統一させることが重要と考えた。また、小山町の商標登録されている公式の金太郎を活用させることが効果的と考える。

2020 年には富士スピードウェイがオリンピック会場となる。町の入り口に設置されている金太郎の看板はそれまでに整備する計画があるとのことだ。是非実現させてほしい。

今回 GPS を活用して各所の金太郎を Cmapper のマップにまとめたため、これを活用したデジタルスタンプラリーも金太郎の効果的な活用につながると考える。

#### 6. 地域への提言

9 月 18 日、小山町健康福祉会館にて小山町建設部商工観光課湯山課長をはじめとした職員の皆様、事業採択者であるふじのくに地域・大学コンソーシアム大村氏、小山町 DMO の浅谷氏を交えて、調査の報告会を行った。

金太郎の活用状況調査を行った際に作成した Cmapper を活用したデジタルスタンプラリーなどの取り組みや、マンホールカードを模作した金太郎カードを試作し、実際に見ていただいた。金太郎を統一させることが効果的な活用につながると提案した。

#### 7. 地域からの評価

『小山町では観光振興計画に基づき、観光交流客の増加を大目標として様々な施策をアクションプランとして定め、金太郎のような元気で賑わいのあるまちを目指しております。

この度、町のシンボルである金太郎を活用した町の広報戦略について調査・研究をいただき、学生らしい柔軟な発想で成果・提言をいただいたことに大変感謝しております。

特に、金太郎のクイズやお絵描きで具体的な認知度を測る点や、点在する金太郎をデジタルスタンプラリーとして誘客・周遊に活用する点は行政では容易に発想できる内容でなく、大変参考になりました。提言いただいた内容については、今後の町の観光政策に活用させていただきたいと考えています。』(平成 31 年 1 月 15 日・小山町建設部商工観光課)